

2013年度第1四半期決算説明会



2013年7月31日

2013年度第1四半期決算概要（実績）



2013年度 第1四半期 決算実績 <対2012年第1四半期実績>



決算実績のポイント

増収減益

(+/-, +/-▲は利益に対する影響を示す, 億円)

売上高	+310:	+	都市ガス売上増	(+160: 円安による販売単価増等)	
営業費用	▲368:	-	LNG販売売上増	(+105: 販売量増、販売単価増)	
		-	都市ガス原材料費等増	(▲200: 円安による費用増)	
営業利益	▲59:	-	LNG販売 原材料費増	(▲105: 販売量増、円安による費用増)	
		-	都市ガス営業利益の減少	(▲46: うちガス粗利▲40(うち気温差▲70、スライド差+34等))	
営業外損益	▲40:	-	前期TG/ハビ才融資金受取利息の剥落による営業利益減	(▲24)	
		-	専用設備料収入の減	(▲20: 区域外大口専用本支管建設収益)	
特別損益等	+3:	+	為替差損益	(▲19)	
		+	有価証券評価損の減	(+38)、海外関係会社(カヌレーソ)株式売却益の剥落	(▲35) (単位: 億円)

	2013年度第1四半期	2012年度第1四半期	増減	%
ガス販売量(百万m ³ , 45MJ)	3,387	3,496	▲109	▲3.1
売上高	4,736	4,426	310	7.0
営業費用	4,336	3,968	368	9.3
営業利益	399	458	▲59	▲12.8
経常利益...①	396	495	▲99	▲20.0
当期純利益	260	317	▲57	▲18.1
気温影響...②	▲59	11	▲70	-
スライドタイムラグ...③	▲30	▲64	+34	-
年金数理差異償却額...④	▲5	▲11	+6	-
補正経常利益...①-(②+③+④)	490	559	▲69*	▲12.3%
補正当期純利益	322	360	▲38	▲10.6%

※▲69:ガス販売量減▲14(気温影響▲70控除後)、諸経費増▲22、電力+10、海外▲19、営業外▲40、その他セグメント利益等+16

経済フレーム	原油価格(\$/bbl)	為替レート(¥/\$)	平均気温(°C)	年金	運用利回り※個別、コスト控除後
2013年度第1四半期	107.7	98.8	17.5	FY13.1Q	▲2.05%
2012年度第1四半期	122.6	80.2	16.4	FY12.1Q	+1.47%

まず決算の概況でございます。

13年度第1四半期の業績は2ページの表の通り、対前年で増収減益となりました。増収は4期連続、減益は2期ぶりですが、売上高は第1四半期として過去最高を更新いたしました。

売上高は、都市ガス事業において、円安による原料価格上昇に伴う販売単価増等によりガス売上高が160億円増加したことに加え、LNG販売において数量増等で105億円増加するなど、対前年で310億円・7.0%増の4,736億円となっております。

一方、営業費用は、都市ガス原料費が200億円増加、LNG販売費用が105億円増加したこと等により、対前年で368億円・9.3%増の4,336億円となりました。

これにより、営業利益は対前年59億円・12.8%減の399億円となりました。経常利益は、専用設備料収入が20億円減少したこと等により、99億円・20%減の396億円となりました。

この結果、税引き後の当期純利益は57億円・18.1%減の260億円となりました。

なお、原料価格の変動に伴うスライドタイムラグは、前期64億円の未回収から34億円改善し、今期30億円の未回収となりました。

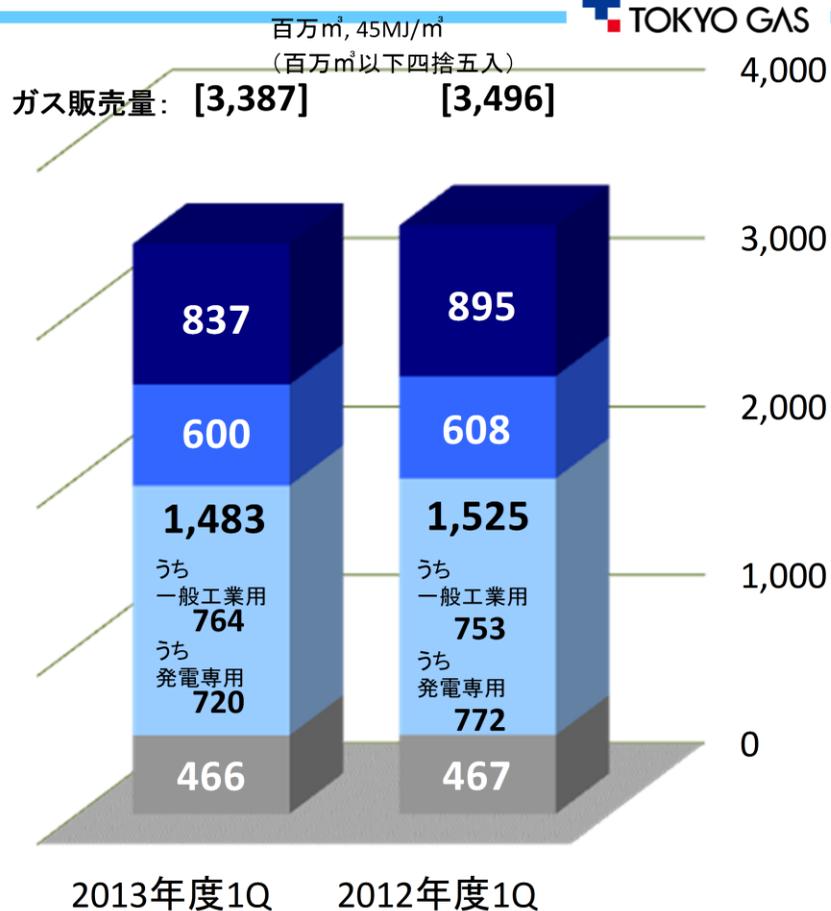
年金数理差異の償却額は前期11億円の負担から、今期5億円の負担となり、前期比較で6億円利益を増加させる要因となっております。

連結ガス販売量実績 (2013.4.1 – 2013.6.30)

2012年度1Q → 2013年度1Q

▲109百万m³ (▲3.1%)の減少
[うち気温影響▲71百万m³▲2.0%の減少]

■ 家庭用 ・気温要因 ▲58百万m ³ ・お客さま件数の増 +11百万m ³ ・日数影響 +3百万m ³ ・その他 (標準化後1件当り使用量減(個別) ▲1.2%) ▲14百万m ³ ▲58百万m³ (▲6.5%)
■ 業務用 ・気温要因 ▲9百万m ³ ・日数影響 +3百万m ³ ・その他 ▲2百万m ³ ▲8百万m³ (▲1.4%)
■ 工業用 ・一般工業用: 鹿島地区新規獲得等 +11百万m ³ ・発電専用: ▲53百万m ³ ニジオ▲198百万m ³ (トーリングシフト) ニジオ以外+146百万m ³ ▲42百万m³ (▲2.7%)
■ 卸 ・一般卸需要(うち気温▲4) ▲1百万m ³ ・大口卸需要 0百万m ³ ▲1百万m³ (▲0.2%)



	2013年度1Q	2012年度1Q	増減
LNG液販売量(千t)	396	299	+97(+32.6%)
平均気温(°C)	17.5	16.4	+1.1

お客さま件数			(単位:万件)
2013年度1Q末	2012年度1Q末	増減	
1,099.5	1,087.4	+12.1(1.1%)	

3ページでは当四半期のガス販売量についてご説明いたします。

13年度第1四半期の連結ガス販売量は、対前期比1億900万m³・3.1%減の33億8,700万m³となりました。電力事業向けガス販売量がトーリングとなった影響が、マイナス1億9,800万m³あり、対前年で減少しております。

家庭用は、13年度第1四半期の平均気温が12年度より1.1度高かったことによる給湯需要減で、5,800万m³・6.5%減少しております。

業務用は4月分の気温が前期と比較して高く推移した影響により、800万m³・1.4%の減少となりました。

工業用では、鹿島地区の需要開発で6,300万m³増加させましたが、鹿島地区以外では、トーリング化での減少が1億9,800万m³あった一方、他の発電需要等が9,400万m³増加し、全体では4,200万m³・2.7%の減少となりました。

工業用の用途内訳では、一般工業用において、鹿島地区の需要開発が進んだこと等から1,100万m³増加しました。発電用では、5,300万m³の減少となりましたが、トーリング分を含めると、実質1億4,900m³・16.6%の増加となっています。

2013年度実績

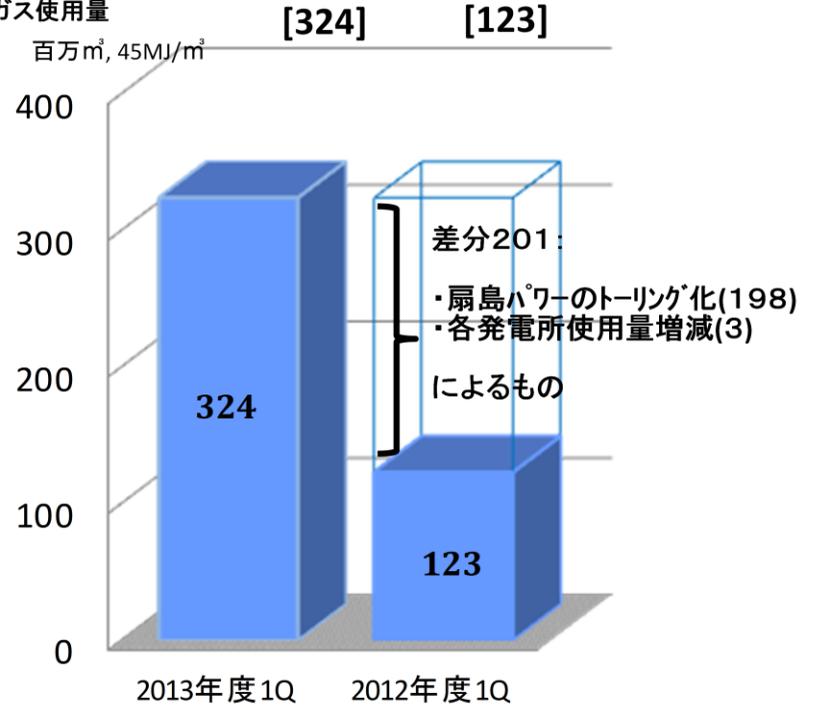
トーリングによるガス使用量込(単位:百万m³)

	2013年度 1Q	2012年度 1Q	増減	
ガス販売量 (財務会計数値)	3,387	3,496	▲109	▲3.1%
トーリングによる ガス使用量	324	123	201	163.8%
合計	3,711	3,619	92	2.5%

工業用ガス販売量内訳(単位:百万m³、()内前年実績増減)
(除くトーリング分)

	鹿島地区	その他	合計
発電専用	58 (+43)	662 (▲95)	720 (▲53)
一般工業用	30 (+20)	733 (▲9)	764 (+11)
合計	88 (+63)	1,395 (▲104)	1,483 (▲42)

トーリングによる
ガス使用量



※トーリング: 電力販売者が発電に必要な燃料ガスを調達して発電事業者に渡し、発電事業者はそれを受託発電し電力販売者に引渡し受託発電料を得る契約

4ページでは販売量には計上されない、トーリングによるガス使用量をお示ししています。扇島パワー向けのガス販売が今年度よりトーリング化されたこと等により、2億100万m³・163.8%の増加となっております。

ガス販売量とトーリングによるガス使用量を合計したガスの合計量では、9,200万m³・2.5%増加しております。

また、このページでは、工業用ガス販売量について、鹿島地区と既存地区とに分けて、それぞれを、発電専用と、一般工業用に区分して前年度との増減ご説明しておりますのでご参考をお願いいたします。

2013年度実績 セグメント別売上高・営業損益（対2012年度実績）

(単位:億円)

	売上高			営業損益				
	2013年度1Q			2012年度1Q	2013年度1Q			2012年度1Q
	実績	対前期比	%	実績	実績	対前期比	%	実績
都市ガス	3,445	160	4.9	3,285	435	▲46	▲9.6	481
器具及びガス工事	423	▲1	▲0.3	424	6	2	34.0	4
その他エネルギー	794	43	5.7	751	35	7	23.8	28
(電力事業)	285	15	5.4	270	27	10	57.2	17
不動産	73	▲2	▲2.1	75	16	0	▲4.7	16
その他	405	▲45	▲10.1	450	6	▲23	▲79.6	29
(海外事業)	37	9	35.4	28	3	▲19	▲84.9	22
調整額	▲406	155	—	▲561	▲100	4	—	▲104
連結	4,736	310	7.0	4,426	399	▲59	▲12.8	458

- 注記:
- セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
 - 「その他エネルギー」には、「エネルギーサービス」、「液化石油ガス」、「電力」、「産業ガス」等を含みます。
 - 「その他」には、「建設」、「情報処理サービス」、「船舶」、「クレジット・リース」、「海外」事業等を含みます。
 - 営業損益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。
 - () 内は内数表示

次に各セグメント別の実績についてご説明いたします。

5ページでは、セグメント別に13年度第1四半期の売上高、営業損益を、前年度との比較で記載しています。

各セグメントにおける営業利益増減の理由について、次のページでご説明いたします。

2013年度実績 経常利益分析 <対2012年度1Q実績>



※符号は利益の貢献に対して表示

都市ガスセグメントの46億円・9.6%の減益は、既にご説明したスライドタイムラグ改善34億円があったものの、販売量の減少による粗利益84億円の減少が主な要因となっております。

電力事業は、10億円・57.2%の増加となっております。販売電力量は資料に記載の通りほぼ前年度並みです。一方で昨年度のニジオガス部門の営業利益15億円がトーリング化によりガスセグメントからこの電力事業に移行しておりますので、実質的には5億円の減益になります。これは販売単価差および電力向け原料購入単価差によるものです。

海外事業は19億円・84.9%の減益となっておりますが、これは昨年度第1四半期に発生しましたTGハビオの発電会社への融資金利息収入が今年度は無かった一方、プルートの生産が順調に拡大したこと等によるものです。

営業外損益40億円の悪化は、区域外大口専用本支管建設に伴う負担金収益の減少20億円、および為替差損益の悪化19億円が主要因です。

2013年度 上期見通し



ポイント 減収

(+ - , +/▲は利益に対する影響を示す, 億円)

売上高	▲130	:	-	都市ガス売上減 (▲181: 都市ガス販売量減(販売量は1Q計画差▲191百万m ³ のみ反映、2Q計画は修正なし))
		:	+	LNG販売売上増 (+29: 数量増等)
		:	+	電力売上増 (+23: 販売単価増等)
営業費用	+160	:	+	都市ガス原材料費減 (+178: 販売量減、円高・原油安による原料費減)
		:	-	LNG販売原材料費増 (▲24: 数量増等)
		:	+	電力原材料費減 (+3: 円高・原油安による原料費減)
営業利益	+30	:	-	都市ガス営業利益の減 (▲3: 都市ガス販売量減▲64(うち気温影響▲59)、スライド+61)
		:	+	電力利益の増 (+26: 販売単価増等による利益増)
		:	+	LNG販売利益増 (+4)

(単位: 億円)

	今回発表	当初計画(4.26)	増減	%	2012年度上期	増減	%
ガス販売量(百万m ³ , 45MJ)	6,732	6,923	▲191	▲2.8%	6,998	▲266	▲3.8%
売上高	9,420	9,550	▲130	▲1.4%	8,637	783	9.1%
営業費用	8,750	8,910	▲160	▲1.8%	7,986	764	9.6%
営業利益	670	640	30	4.7%	650	20	3.0%
経常利益…①	610	600	10	1.7%	670	▲60	▲9.1%
当期純利益	400	400	0	0.0%	399	1	0.0%

気温影響…②	▲59	0	▲59	-	8	▲67	-
スライドタイムラグ…③	108	47	61	-	8	100	-
年金数理差異償却額…④	▲11	▲11	0	-	▲22	11	-
補正経常利益①-(②+③+④)	572	564	8	+1.4%	676	▲104	▲15.4%
補正当期純利益	374	376	▲2	▲0.5%	404	▲30	▲7.4%

原油価格・為替レート変動の粗利影響感度	(単位: 億円)	2Q	経済フレーム (上期)	原油価格(\$/bbl)			為替レート(¥/\$)			平均気温 (°C)
				1Q	2Q	平均	1Q	2Q	平均	
JCCが\$1/bbl上昇		▲1	今回見通し	107.7	110.0	108.9	98.8	100.0	99.4	21.8
			前回見通し		110.0			100.0		21.4
¥1/USD円安		▲10	前年上期		113.9			79.4		21.6

続いて2013年度上期の収支見通しについてご説明いたします。

今上期は対前回見通し比較で、130億円・1.4%の減収、純利益は増減無しとなる見込みです。売上高は、都市ガス事業において、販売量減により都市ガス売上高が181億円減少する一方、LNG販売において数量増等により29億円増加することなどから、対前回見通しで130億円・1.4%減の9,420億円を見込んでおります。

一方、営業費用は、都市ガス原料費が販売量減により178億円減少する一方、LNG販売費用が24億円の増加を見込むこと等により、対前回見通しで160億円・1.8%減の8,750億円となる見込みです。これにより、営業利益は対前回見通しで30億円・4.7%増の670億円を見込んでおります。経常利益は、為替差損益の悪化等を反映し、営業利益の増益幅を若干下回る10億円・1.7%増の610億円となる見込みです。

連結ガス販売量上期見通し

前回見通し→今回見通し

▲191百万m³ (▲2.8%)の減少

[うち気温影響▲71百万m³▲1.0%の減少]

前年度実績→今回見通し

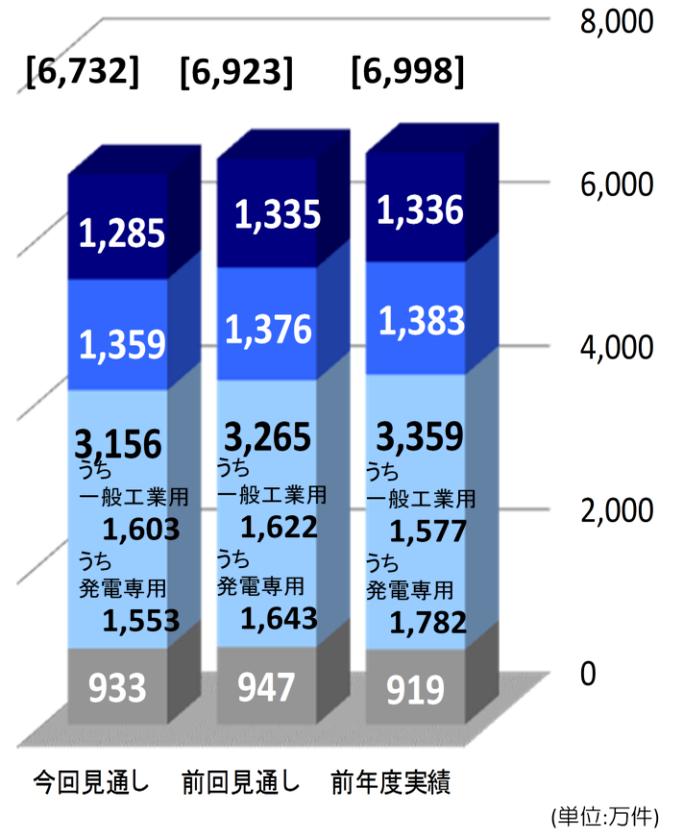
▲266百万m³ (▲3.8%)の減少

[うち気温影響▲88百万m³▲1.3%の減少]

用途	今回見通し	前年度実績
■ 家庭用 ▲51百万m ³ (▲3.8%) ● 気温要因 ▲49百万m ³ ● お客さま件数増 +2百万m ³ ● 日数影響 ▲1百万m ³ ● その他 ▲2百万m ³	■ 家庭用 ▲51百万m ³ (▲3.9%) ● 気温要因 ▲53百万m ³ ● お客さま件数増 +12百万m ³ ● 日数影響 +2百万m ³ ● その他 ▲12百万m ³	
■ 業務用 ▲17百万m ³ (▲1.2%) ● 気温要因 ▲19百万m ³ ● 日数影響 +1百万m ³ ● お客さま件数減 ▲2百万m ³ ● その他 +3百万m ³	■ 業務用 ▲25百万m ³ (▲1.8%) ● 気温要因 ▲31百万m ³ ● 日数影響 +3百万m ³ ● お客さま件数増 +1百万m ³ ● その他 +2百万m ³	
■ 工業用 ▲109百万m ³ (▲3.3%) ● 一般工業用: ▲19百万m ³ (既存設備稼働減等) ● 発電専用: ▲90百万m ³ (既存設備稼働減等)	■ 工業用 ▲203百万m ³ (▲6.1%) ● 一般工業用: +26百万m ³ ● 発電専用: ▲230百万m ³ トーリング影響等	
■ 卸 ▲14百万m ³ (▲1.5%) ● 気温要因 ▲3百万m ³ ● その他 ▲11百万m ³ (卸供給事業者需要減等)	■ 卸 +14百万m ³ (+1.5%) ● 気温要因 ▲4百万m ³ ● その他 +18百万m ³ (卸供給事業者需要増等)	

ガス販売量:

(百万m³以下四捨五入)



	今回見通し	前回見通し	増減
LNG液販売量(千t)	730	726	+4(+0.5%)
平均気温(°C)	21.8	21.4	+0.4

9ページで、13年度上期のガス販売量見通しについてお話しいたします。

対前回見通しで、家庭用は5,100万m³・3.8%の減、業務用は17百万m³・1.2%の減を見込んでおりますが、これは主に気温影響によるものです。

工業用の用途内訳では、一般工業用において、既存設備の稼働減等から1,900万m³の減少を見込んでおります。発電専用においても既存発電所の稼働減等から9,000万m³の減少を見込んでおります。

以上より上期のガス販売量トータルでは対前回見通し1億9,100万m³・2.8%下方修正の67億32百万m³を見込んでおります。

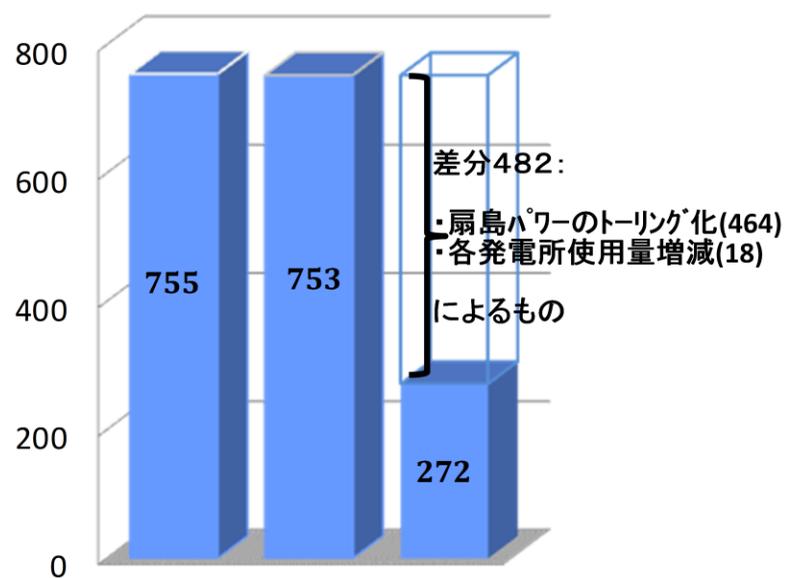
2013年度上期見通し

トーリングによるガス使用量込(単位:百万m³)

	今回 見通し	前回 見通し	増減	FY2012 実績	増減
ガス販売量 (財務会計数値)	6,732	6,923	▲191 (▲2.8%)	6,998	▲266 (▲3.8%)
トーリングによる ガス使用量	755	753	+1 (+0.2%)	272	+482 (+176.9%)
合計	7,486	7,676	▲190 (▲2.5%)	7,270	+216 (+3.0%)

百万m³, 45MJ/m³

トーリングによるガス使用量



工業用ガス販売量内訳(単位:百万m³、()内は前回見通し差異)
(除くトーリング分)

	鹿島地区	その他	合計
発電専用	212 (▲49)	1,341 (▲41)	1,553 (▲90)
一般工業用	70 (+1)	1,533 (▲20)	1,603 (▲19)
合計	282 ▲48)	2,874 (▲61)	3,156 (▲109)

今回見通し 前回見通し FY2012実績
※トーリング: 電力販売者が発電に必要な燃料ガスを調達して発電
事業者に渡し、発電事業者はそれを受託発電し電力販売者に引渡し
て受託発電料を得る契約

10ページでは第1四半期実績でお話したのと同様に、販売量には計上されない、トーリングによるガス使用量をお示ししています。上期のガス使用量はほぼ前回見通し並みの7億5,500万m³を見込んでおります。

ガス販売量とトーリングによるガス使用量を合計したガスの合計量では、1億9,000万m³、2.5%の減少を見込んでおります。

2013年度 通期見通し



2013年度通期見通し(2013.4.1 - 2014.3.31) <対前回見通し(4月26日発表)>



通期見通しのポイント 減収

(+、-、+/-、▲は利益に対する影響を示す、億円)

売上高	▲200	-	都市ガス売上減 (▲240:数量差▲145、円高・原油安による単価減▲95) (販売量は1Q計画差▲191百万m ³ (発電専用▲90、気温影響▲71)のみ反映、2Q以降計画は修正なし)
		+	LNG販売売上増 (+41:スライドによる単価増等)
		+	電力売上増 (+34:販売単価増等)
営業費用	+200	+	都市ガス営業費用減 (+194:数量減+81、円高・原油安による費用減+79等)
		-	LNG販売営業費用増 (▲38:スライドによる費用増等)
営業利益	±0	-	都市ガス営業利益減 (▲46:数量差▲64(うち気温差▲59)、スライドタイムラグ+18)
		+	電力事業営業利益増 (+22:販売単価増に伴う利益増等)
		+	その他 (+24:海外+9、LNG販売+3、船舶+3他) (単位:100万m ³ ・45MJ、億円)

	今回見通し	前回見通し(4/26)	増減	%	2012年度	増減	%
ガス販売量(百万m ³ , 45MJ)	14,590	14,781	▲191	▲1.3%	15,390	▲800	▲5.2%
売上高	20,960	21,160	▲200	▲0.9%	19,156	1,804	9.4%
営業費用	19,350	19,550	▲200	▲1.0%	17,700	1,650	9.3%
営業利益	1,610	1,610	0	0.0%	1,456	154	10.6%
経常利益...①	1,550	1,550	0	0.0%	1,474	76	5.1%
当期純利益	1,010	1,010	0	0.0%	1,016	▲6	▲0.7%
気温影響...②	▲59	0	▲59	-	29	▲88	-
スライドタイムラグ...③	+227	+209	18	-	▲124	351	-
年金数理差異償却額...④	▲22	▲22	0	-	▲44	22	-
補正経常利益...①-(②+③+④)	1,404	1,363	41*	3.0%	1,613	▲209	▲13.0%
補正当期純利益	913	886	27	3.0%	1,109	▲196	▲17.7%

※+41:ガス販売量減▲5(気温影響▲59控除後)、電力+22、海外+9、その他セグメント利益増等+15

期待収益率:2%

原油価格・為替レート変動の粗利影響感度	(単位:億円)	2Q~4Q合計	経済フレーム	原油価格	為替レート	平均気温	年金	運用利回り ※コスト控除後	割引率	期末資産 (億円)
			(通年)	(\$/bbl)	(¥/\$)	(°C)				
			今回見通し	109.4	99.7	16.8	FY12	6.10%	1.4%	2,760
JCCが\$1/bbl上昇		▲10	前回見通し	110.0	100.0	16.6	FY11	5.13%	1.7%	2,540
¥1/USD円安		▲12	2012年度	113.9	82.9	16.6				

次に2013年度決算の、通期見通しについてご説明いたします。

対前回見通しでは、売上高が若干の下方修正となりますが、利益見通しは変えておりません。

後程お話しいたしますように、今回は販売量を対前回見通しで下方修正しております。

売上高は、販売量を下方修正したこと、および対前回見通しで若干の円高・原油安になることから原料費調整制度による単価減などにより、都市ガス売上高で240億円の減少となる一方、LNG販売売上高がスライドによる単価増等により41億円増加することなどから、200億円・0.9%と微減の2兆960億円を見込んでおります。

営業費用はガス販売数量下方修正に伴う原料費の減少194億円等から、200億円・1.0%減の1兆9,350億円を見込んでおります。

この結果、対前回見通しと同様に、営業利益は1,610億円、経常利益は1,550億円、当期純利益は1,010億円を見込んでおります。

連結ガス販売量見通し

前回見通し → 今回見通し

▲191百万m³ (▲1.3%)の減少
[うち気温影響▲71百万m³, ▲0.5%の減少]

前年実績 → 今回見通し

▲800百万m³ (▲5.2%)の減少
[うち気温影響▲139百万m³, ▲0.9%の減少]

■ 家庭用 ▲51百万m³ (▲1.4%)

- 気温要因 ▲49百万m³
- お客さま件数増 +2百万m³
- 日数影響 ▲1百万m³
- その他 ▲2百万m³

■ 家庭用 ▲75百万m³ (▲2.1%)

- 気温要因 ▲82百万m³
- 日数影響 +2百万m³
- 件数増 +37百万m³
- その他 ▲32百万m³

■ 業務用 ▲17百万m³ (▲0.6%)

- 気温要因 ▲19百万m³
- 日数影響 +1百万m³
- お客さま件数減 ▲2百万m³
- その他 +3百万m³

■ 業務用 ▲55百万m³ (▲1.9%)

- 気温要因 ▲53百万m³

■ 工業用 ▲109百万m³ (▲1.7%)

- 一般工業用: ▲19百万m³
(既存設備稼働減等)
- 発電専用: ▲90百万m³
(既存設備稼働減等)

■ 工業用 ▲729百万m³ (▲10.3%)

- 一般工業用: +30百万m³
(鹿島地区稼働増等)
- 発電専用: ▲759百万m³
(トーリング影響等)

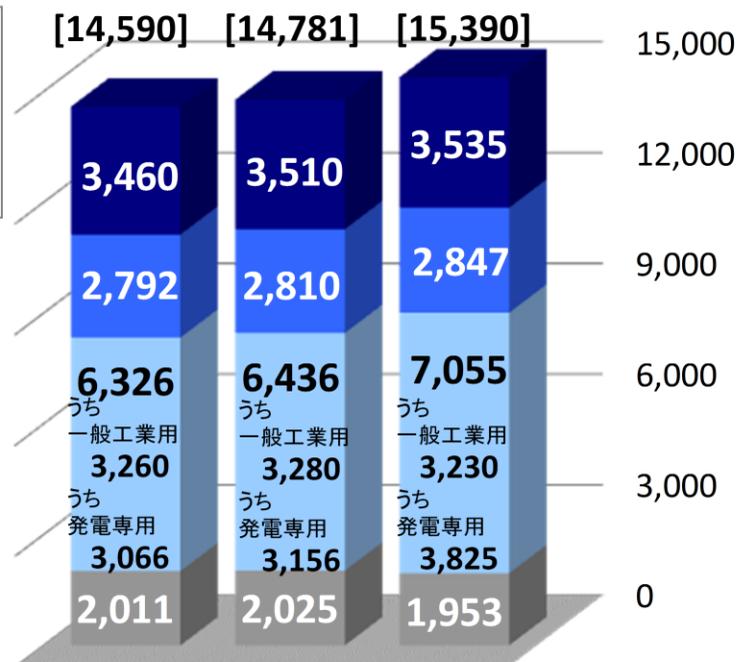
■ 卸 ▲14百万m³ (▲0.7%)

- 気温要因 ▲3百万m³
- その他 ▲11百万m³
(卸供給事業者需要減等)

■ 卸 +58百万m³ (+3.0%)

- 気温要因 ▲4百万m³
- その他 +62百万m³
(卸供給事業者需要増等)

ガス販売量: (百万m³以下四捨五入)



今回見通し 前回見通し 前年度実績

	今回見通し	前回見通し	増減
LNG液販売量(千t)	1,394	1,388	+6(+0.4%)
平均気温(°C)	16.8	16.6	+0.2

(単位:万件)

お客さま件数

	今回見通し	前回見通し	増減
	1,110.4	1,110.2	+0.2(+0.0%)

13ページでは、年度のガス販売量見通しについてご説明いたします。

13年度の連結ガス販売量は、対前回見通しで1億9,100万m³、1.3%減の下方修正となる145億9,000万m³を見込んでおります。

販売量の下方修正は、第1四半期の前回見通し未達分を反映させた結果であり、第2四半期以降は前回見通しを維持しております。従いまして、先ほどご説明した上期ガス販売量の下方修正と同量を年度でも下方修正しております。

続いて用途別内訳についてご説明します。

平均気温は第1四半期実績を反映させますと前回見通しと比較して+0.2°C高くなりますが、販売量の多い4月の実績気温が前回見通しより1.3°Cと大幅に高くなったこと等から、家庭用で5,100万m³・1.4%、業務用で1,700万m³・0.6%の下方修正となっております。

工業用では、主に発電専用ガスで既存発電設備の稼働が第1四半期で前回見通しを下回ったことを反映し、工業用全体では1億900万m³・1.7%の下方修正となっております。

トーリング移行によるガス使用量変化

2013年度見通し

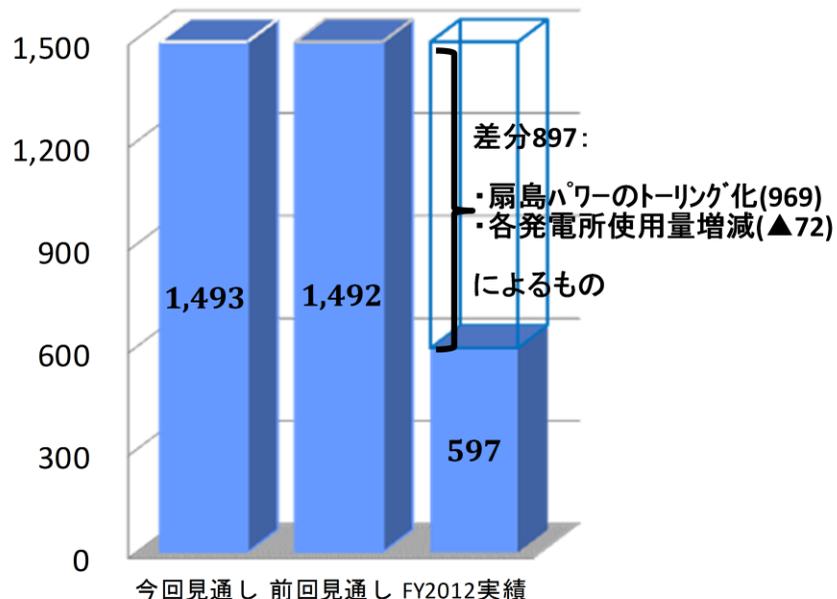
トーリングによるガス使用量込(単位:百万m3)

	今回見通し	前回見通し	増減	FY2012実績	増減
ガス販売量 (財務会計数値)	14,590	14,781	▲191 (▲1.3%)	15,390	▲800 (▲5.2%)
トーリングによる ガス使用量	1,493	1,492	+1 (+0.1%)	597	+897 (+150.3%)
合計	16,083	16,273	▲190 (▲1.2%)	15,986	+97 (+0.6%)

工業用ガス販売量内訳(単位:百万m3、()内は前回見通し増減)
(除くトーリング分)

	鹿島地区	その他	合計
発電専用	508 (▲49)	2,558 (▲41)	3,066 (▲90)
一般工業用	157 (+1)	3,103 (▲21)	3,260 (▲19)
合計	665 (▲48)	5,661 (▲62)	6,326 (▲109)

百万m³, 45MJ/m³ トーリングによるガス使用量



※トーリング: 電力販売者が発電に必要な燃料ガスを調達して発電事業者に渡し、発電事業者はそれを受託発電し電力販売者に引渡し受託発電料を得る契約

14ページでは、トーリングによるガス使用量をお示ししていますが、これはほぼ前回見通しどおりを想定しております。

ガス販売量とトーリングによるガス使用量を合計したガスの合計量では、ガス販売量の下方修正を反映し、対前回見通し1億9,000万m³、1.2%の下方修正となっております。

2013年度通期 セグメント別売上高・営業損益（対前回見通し）

(単位:億円)

	売上高					営業損益				
	今回見通し			前回 見通し 4/26	前年度 実績 FY2012	今回見通し			前回 見通し 4/26	前年度 実績 FY2012
	金額	対前回 見通し	%			金額	対前回 見通し	%		
都市ガス	14,957	▲240	▲1.6	15,197	14,019	1,543	▲46	▲2.9	1,589	1,413
器具及びガス工事	2,075	▲15	▲0.7	2,090	2,060	33	▲2	▲5.7	35	44
その他エネルギー	3,436	57	1.7	3,379	3,366	291	26	9.8	265	259
(電力事業)	1,298	34	2.7	1,264	1,270	223	22	10.9	201	191
不動産	281	1	0.4	280	302	48	2	4.3	46	56
その他	1,917	29	1.5	1,888	1,957	144	16	12.5	128	135
(海外事業)	234	8	3.5	226	124	60	9	17.6	51	24
調整額	▲1,706	▲32	—	▲1,674	▲2,550	▲449	4	—	▲453	▲451
連結	20,960	▲200	▲0.9	21,160	19,156	1,610	0	0.0	1,610	1,456

注記: •セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
 •「その他エネルギー」には、「エネルギーサービス」、「液化石油ガス」、「電力」、「産業ガス」等を含みます。
 •「その他」には、「建設」、「情報処理サービス」、「船舶」、「クレジット・リース」、「海外」事業等を含みます。
 •営業損益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。
 •()内は内数表示

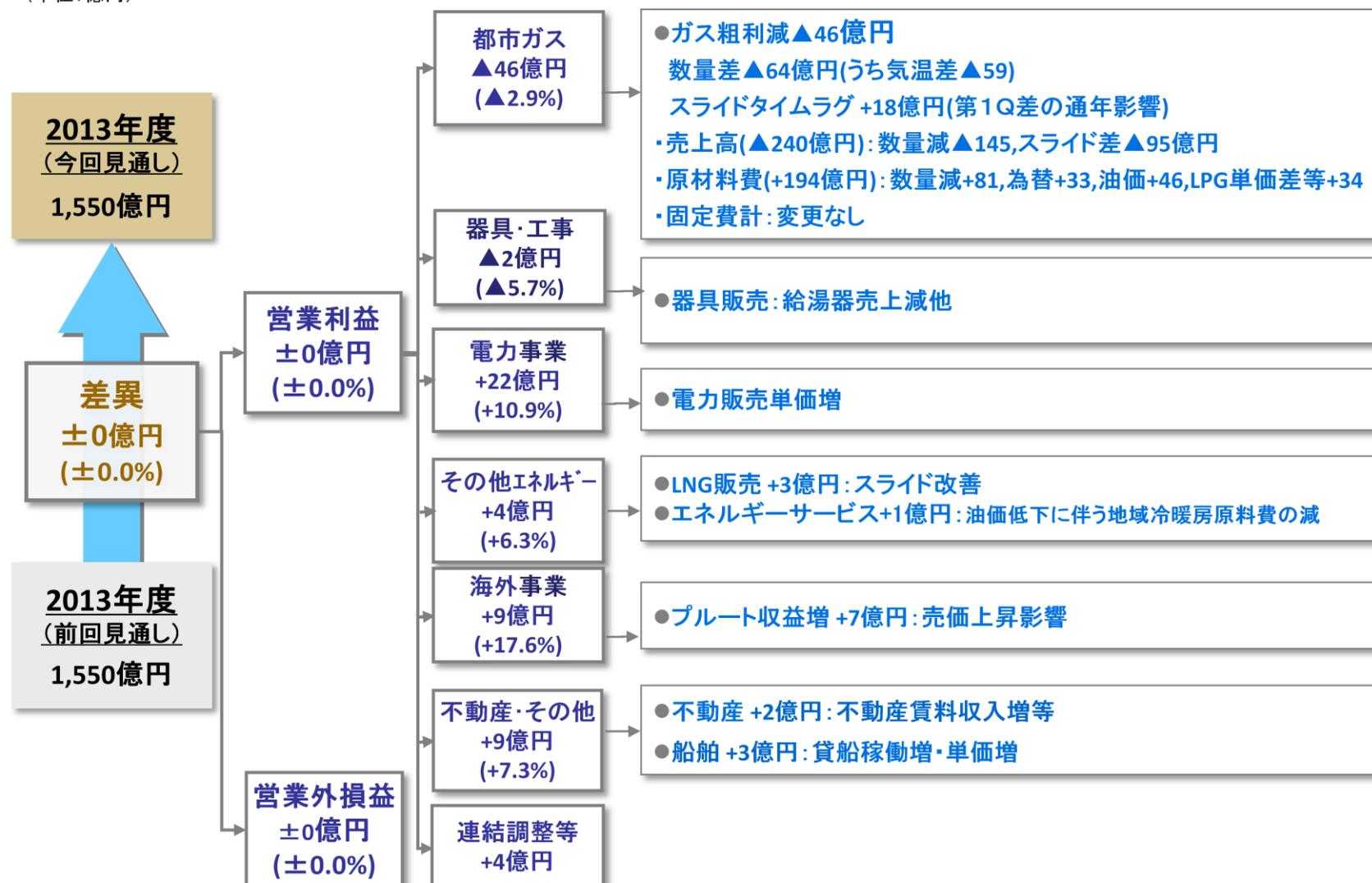
次に各セグメント別の営業利益見通しについてご説明いたします。

15ページでは、セグメント別に13年度の売上高、営業損益見通しを、前回見通しとの比較で記載しています。

営業利益については、主に都市ガスにおいて下方修正する一方、電力事業、海外事業において上方修正し、トータルでは前回見通し通りとしております。その具体的理由について、次のページでご説明いたします。

2013年度見通し 経常利益分析 <対前回見通し>

(単位: 億円)



※符号は利益の貢献に対して表示

都市ガスセグメントの46億円・2.9%の対前回見通し営業利益下方修正は、スライドタイムラグが(JT差の拡大等により)18億円改善する一方、先ほど申し上げた第1四半期販売量の減少によるガス粗利64億円の減少が、下方修正要因となっております。

電力事業は、販売単価が前回見通しと比較して増加する事等により、22億円・10.9%の上方修正といたしました。

海外事業については、売価上昇によりプルートが7億円営業利益を上方修正すること等から、9億円・17.6%の上方修正となります。

2013年度見通し 経常利益分析 <対2012年度実績>

(単位: 億円)

**2013年度
(今回見通し)**
1,550億円

**差異
+76億円
(+5.1%)**

**2012年度
(実績)**
1,474億円

**営業利益
+154億円
(+10.6%)**

**営業外損益
▲78億円
(-)**

**都市ガス
+130億円
(+9.2%)**

**器具・工事
▲11億円
(▲25.4%)**

**電力事業
+32億円
(+16.6%)**

**その他エネルギー
▲0億円
(▲0.1%)**

**海外事業
+36億円
(+144.3%)**

**不動産・その他
▲35億円
(▲20.8%)**

**連結調整等
+2億円**

●**ガス粗利増 +201億円**
(トーリング移行に伴う電力セグメントへの利益移転▲35を含む)
数量差▲192億円(うち気温差▲88)
スライドタイムラグ +351億円他
・売上高(+938億円): 数量減▲483,スライド差+1,352
・原材料費(▲737億円): 数量減+291,為替▲1,408,油価+311他

●**器具販売: GHP販売台数前年度学校特需の剥落**
(個別: ▲972台: +7,608台→6,636台)

●**トーリング移行に伴うガスセグメントからの利益移転+35億円**
●**定修等による数量減▲10億円、単価増+7億円**

●**LNG販売 +26億円:**
数量差(1,262千t→1,394千t)(+4)、スライド改善に伴う単価差(+22)
エネルギーサービス▲24億円: 地域冷暖房における燃料費増等

●**プルト生産増(前年は8カ月運転)、バーネット新規収益増等+56億円**
●**TGバヒオ▲20億円**

●**建設 ▲36億円: 大型物件(LNG基地建設)完了に伴う収益減**

●**専用設備料収入: 前年度区域外大口専用本支管建設収益の剥落**
(28→5) ▲23億円
●**有利子負債増による金融費用増** ▲13億円
●**為替差損増** ▲44億円
(海外子会社+13→▲32、TG: ▲15→▲14)

※符号は利益の貢献に対して表示

P17以降は説明を割愛させていただきますが、2013年度今回見通しと前年度実績との差異説明、主要計数、工業用ガス販売量の推移を掲載しておりますので、ご参考をお願いします。

主要計数表（連結）

(単位: 億円)

	2012年度 実績	2013年度 前回見通し	2013年度 今回見通し
総資産 (a)	19,924	20,900	20,910
自己資本 (b)	9,276	9,640	9,670
自己資本比率 (b)/(a)	46.6%	46.1%	46.2%
有利子負債 (c)	6,425	7,160	7,160
D/E レシオ (c)/(b)	0.69	0.74	0.74
当期純利益 (d)	1,016	1,010	1,010
減価償却 (e)	1,387	1,390	1,400
営業キャッシュフロー (d) + (e)	2,404	2,400	2,410
設備投資 (Capex)	1,837	2,580	2,580
ROA: (d) / (a)	5.3%	4.9%	4.9%
ROE: (d) / (b)	11.5%	10.7%	10.7%
TEP	598	575	570
WACC	3.2%	3.2%	3.2%
総分配性向	60.7%	60%程度予定	60%程度予定

注: 自己資本 = 純資産 - 少数株主持分
 ROA = 純利益/総資産 (期首・期末平均)
 ROE = 純利益/自己資本 (期首・期末平均)
 BS関連数値は各期末時点の数値
 営業キャッシュフロー = 純利益 + 減価償却 (長期前払費用償却含む)
 総分配性向 = [N年度の配当 + (N+1)年度の自社株取得] / N年度の連結純利益
 * 発行済み株式総数: 2,577,919,295株 (2013年3月31日現在)

TEP (Tokyo Gas Economic Profit) について
 TEP=NOPAT-資本コスト (投下資本×WACC)
 WACC算定諸元(2013見通し)
 ・有利子負債コスト 金利1.6%
 ・株主資本コスト率 10年国債利回過去10年平均 1.3%
 ・リスクプレミアム 4.0% β 0.75
 ・自己資本=平均時価総額

参考資料



連結工業用ガス販売量推移

